【教育・学術・研究／社会人教育・地域教育】

大ナゴヤ大学 様



「大ナゴヤ大学」は、名古屋に関連するテーマを学び合う場を提供している NPO 法人だ。モットーは「学び合い」で、2009 年に活動を開始して、わずか 2 年で 2400 人の参加者が集まった。「ナゴヤを生涯学習の場にして、地域活性化の成功モデルになりたい」――そう話すのは学長の加藤慎康さん。地域住民がそれぞれの立場で、壮大なキャンパスに名古屋の魅力を描いている。大ナゴヤ大学の運営には「サイボウズ Live」が活用されている。

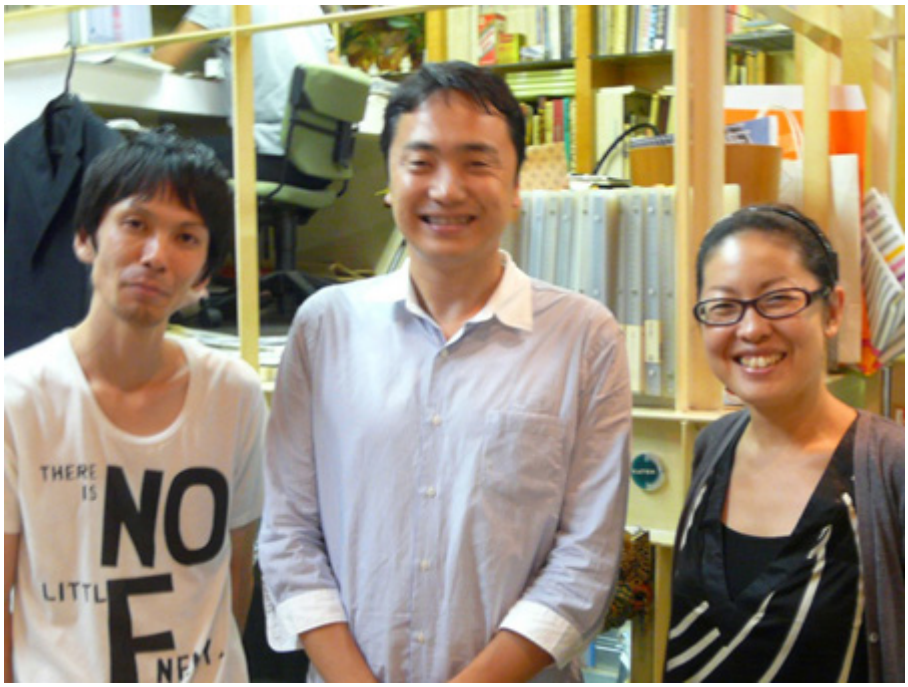
大人の遊び心は、教室では学べない――大ナゴヤ大学は地域活性化の成功モデルを目指す

プロジェクトの概要

大ナゴヤ大学は、名古屋を中心に教育活動を行う NPO 法人です。「街がまるごとキャンパス」&「誰でも先生、誰でも生徒」をコンセプトに「実験室プロジェクト」などを進め、名古屋の魅力を地域住民の皆さんに伝える授業を展開しています。

copyright © Cybozu

授業後のアンケートを分析し、新しい授業を企画したり今後のまちづくりにつなげたりしています。授業ごとにチームを作り、課題を明らかにして、次の授業に生かすという「PDCA」を意識した運営を意識しています。



大ナゴヤ大学を運営する加藤慎康さん（中央）、授業コーディネーターの大野嵩明さん（左）、生駒郁代さん（右）

プロジェクトの課題

1. 活動時間帯の異なるメンバーの意思疎通が困難に

大ナゴヤ大学は創立から 2 年が経ち、今では年間 60 以上の授業が開講されています。授業の企画を手掛ける運営メンバーが 15〜20 人、当日に授業を手伝ってくれるボランティアメンバーが約 130 人いて、その多くは本業を持つボランティアスタッフです。

活動できる時間帯はバラバラだったため。授業チームごとに毎週開くミーティングで、全員が顔を合わせることがなかなかできなくなっていました。

2. メールの送受信数が多くなり、気軽な連絡ができなくなった

copyright © Cybozu

メーリングリストの受信数が多かったので、「これ以上メールの数が増えると、重要な連絡を見てもらえないのではないか」と考えることが多かったです。また議論のテーマがぶれないようにタイトルの付け方や送信内容を吟味することも多く、気軽な連絡ができませんでした。

3. ファイルサーバに保管した資料を確認してもらうのが難しかった
進ちょくを記入した Excel をファイルサーバに保管し、保管場所をメーリングリストでスタッフに連絡していました。しかし、ファイルサーバに別途アクセスする習慣がないスタッフも多く、共有されたファイルを確認してくれるメンバーとそうでないメンバーが出てきました。

NPO の運営で一番大事なのはコミュニケーションですので、メンバーが不便さを感じることなく最新情報にアクセスできる仕組みが必要と感じていました。

導入効果

1. 会議を開かなくても、意見交換や意思疎通ができるようになった

サイボウズ Live を使うことで、各種連絡がオンラインで完結するようになりました。会議を開かなくても、100 名超のスタッフの情報共有や意見交換ができるようになったのです。



様々なやりとりがオンラインで完結している

copyright © Cybozu

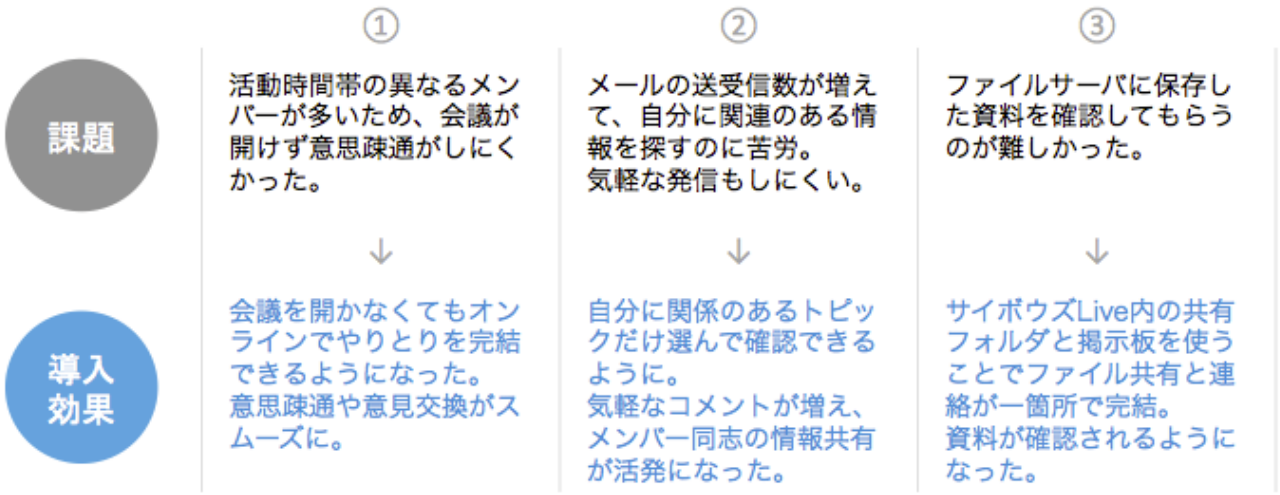
2. チームごとにトピックをわけて議論できるようになり、情報発信を躊躇しなくなった

サイボウズ Live では「広報」「総務」「ボランティアスタッフ」といったチームごとにトピックを立ててディスカッションができるため、所属しているチームの最新情報を探しやすくなりました。

サイボウズ Live はメールと違って、書き込みやすい雰囲気がありますよね。授業終了後に掲示板を見ると、メンバーからの「お疲れ様でした！」という気軽なコメントが集まります。メールのように送信数を気にせずにコメントをしてくれるメンバーが増えました。

3. 追加・更新したファイルをメンバーが確認してくれるようになった

「掲示板」「ToDo リスト」「共有フォルダ」などの機能が 1 つにまとまっていて、追加・更新したファイルの情報がホーム画面に表示されます。最新のファイルのありかが明確になり、メンバーが難なく確認してくれるようになった結果、ファイルの確認度合いのばらつきがなくなったのです。



特長的な運用方法

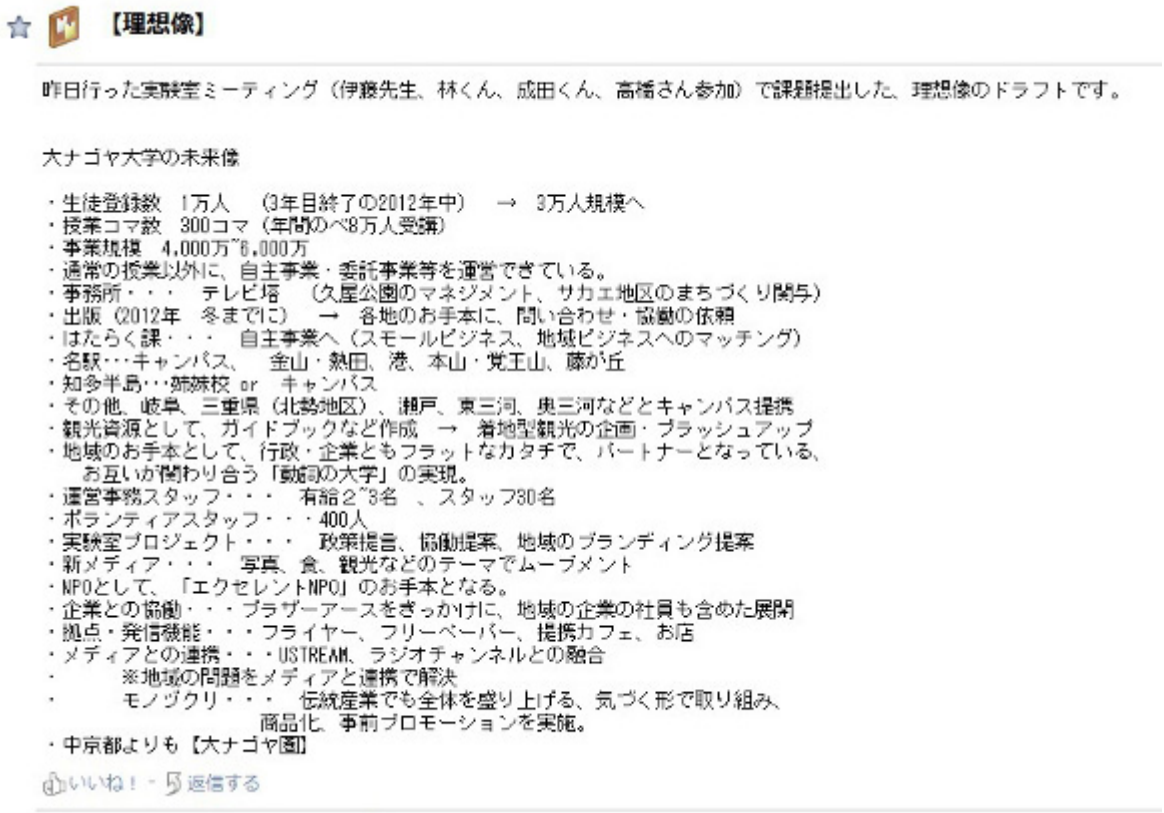
1. 「トピックや ToDo のタイトルに日付と案件名つける」など運用ルールをつくる

「掲示板」と「ToDo リスト」には、日付と案件名を入れたタイトルを付けるルールを設けています。これにより、今どの授業の企画でディスカッションが行われているかが一目で分かります。

2. メンバーに活動の理念を共有するトピックを立てる

copyright © Cybozu

掲示板には「理想像」というトピックも立てました。大ナゴヤ大学の将来や進むべき方向性について、僕（学長の加藤さん）が考えたことを更新しています。こういう情報はなかなかメールでは送りにくいですが、サイボウズ Live だと「いいね！」が付いて励みになりますし、大ナゴヤ大学の方向性にメンバーが共感してくれていることが実感できます。


【理想像】

昨日行った実験室ミーティング（伊藤先生、林くん、成田くん、高橋さん参加）で課題提出した、理想像のドラフトです。

大ナゴヤ大学の未来像

・生徒登録数　1万人　（3年目終了の2012年中）　→　3万人規模へ
・授業コマ数　300コマ（年間のべ8万人受講）
・事業規模　4,000万~6,000万
・通常の授業以外に、自主事業・委託事業等を運営できている。
・事務所・・・　テレビ塔　（久屋公園のマネジメント、サカエ地区のまちづくり関与）
・出版（2012年　冬までに）　→　各地のお手本に、問い合わせ・協働の依頼
・はたらく課・・・　自主事業へ（スモールビジネス、地域ビジネスへのマッチング）
・名駅・・キャンパス、　金山・熱田、港、本山・覚王山、藤が丘
・知多半島・・姉妹校 or　キャンパス
・その他、岐阜、三重県（北勢地区）、瀬戸、東三河、奥三河などとキャンパス提携
・観光資源として、ガイドブックなど作成　→　着地型観光の企画・ブラッシュアップ
・地域のお手本として、行政・企業ともフラットなカタチで、パートナーとなっている、
　お互いが関わり合う「動詞の大学」の実現。
・運営事務スタッフ・・・　有給2~3名　、スタッフ30名
・ボランティアスタッフ・・・400人
・実験室プロジェクト・・・　政策提言、協働提案、地域のブランディング提案
・新メディア・・・　写真、食、観光などのテーマでムーブメント
・NPOとして、「エクセレントNPO」のお手本となる。
・企業との協働・・・ブラザーアースをきっかけに、地域の企業の社員も含めた展開
・拠点・発信機能・・・フライヤー、フリーペーパー、提携カフェ、お店
・メディアとの連携・・・USTREAM、ラジオチャンネルとの融合
・　　※地域の問題をメディアと連携で解決
・　　モノづくり・・・　伝統産業でも全体を盛り上げる、気づく形で取り組み、
　　商品化、事前プロモーションを実施。
・中京都よりも【大ナゴヤ圏】

いいね！ - 返信する

加藤さんが考える大ナゴヤ大学の方向性をグループで共有している

ここがおすすめ！ 便利な機能

スマートフォンアプリで、みんなの返信が早くなる

copyright © Cybozu



サイボウズ Live for iPhone でいつでも情報をチェックできる

大ナゴヤ大学の運営チームでは、iPhone の利用率が異様に高いです。iPhone アプリ「サイボウズ Live for iPhone」をホーム画面の最初に配置しています。Twitter や Facebook と同じく、アプリの“一軍”になっています。

スタッフの情報のキャッチアップが早くなっているなあと思ったら、みんな iPhone アプリを使っていました。PC、スマートフォン、携帯電話と端末を選ばずに使えるサイボウズ Live では、スマートフォンアプリを併用するのが、大ナゴヤ大学のおすすめです。

2011/10/18

copyright © Cybozu